

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490700123		
法人名	社会福祉法人 慈徳会		
事業所名	グループホームさくらテラス		
所在地	松阪市立田町786-1		
自己評価作成日	平成28年1月5日	評価結果市町提出日	平成28年3月00日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490700123-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この朝見地域で「介護に困ったらさくらテラスへ」を掛け声に、地域に働きかけをしております。多くの利用者はまず認知症デイサービスのご利用が始まります。そのご利用された方が、買い物支援、病院への送迎支援、短期宿泊など次第に支援ニーズが増えていきます。この利用者の生活にさらに関われる様に、その段階で小規模多機能へと移行していただきます。住み慣れた自宅で最期まで暮らせるように支援してしていく中で、やはり入所を選択される方も多くおられます。私どものグループホームはこうした経緯から入所して頂く方がほとんどで、リロケーションダメージなどのストレスがあまりなくスムーズに入所へ移行して頂けるのが特色の一つです。地域の防災訓練、芸能発表会、文化祭にも参加させていただいたり、歌の慰問や、小学生の慰問では懐かしい歌と一緒に歌ったり、昔の遊びを利用者から子供たちに伝えて交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスと小規模多機能型居宅介護を併設したグループホームは数々の文化財や牡丹の花で有名な朝田寺や朝見小学校に近く、榊田川流域の豊かな田園地帯に位置し、高齢者の日々の生活の場としても恵まれた環境に立地しており、建物はゆったりとした佇まいである。地域福祉に篤い想いで取り組まれた管理者の下、開設時にみんなで考えた理念、『信頼』『笑顔』『歓喜』を全職員が共有し、その人の尊厳を守り、自己決定に基づいた暮らしの支援を行い、利用者一人ひとりに寄り添うケアを実践している。昼食時、『此処の御飯は美味しい！！。毎日の食事が楽しみ！！』と話された利用者を見守る職員の眼差しは優しく、家族からも『此処を訪問するのが楽しみ』『此処に来て母が元気になってきた』と感謝の声が多く届いている。DCM法のマッピングを導入し、認知症になってもその人らしく、大切にされていると実感してもらえる様にパーソン・センタード・ケアを実践し、日々の会話を大切に支援している。地域からも大切にされているこの地域にはなくてはならない、優しい風が流れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で考えた理念のため覚えやすく、会議や引き継ぎ時に確認しあい、共有し実践している。	職員全員で意見を出し合い一緒に考えた理念『信頼』『笑顔』『歓喜(共によるこび)』を、毎月の第4水曜日(部署17時40分～)(全体18時50分～)の会議で確認している。申し送り時に共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の朝見まちづくり協議会に参加させていただき、防災訓練、夏祭り、朝田寺花火大会、文化祭、芸能大会など参加させていただいている。また、防災協定を締結。相互の支援体制を確立。	朝見小学校・東部中学校区に立地しており、朝見まちづくり協議会(福祉教室・認知症サポート養成・文化祭・・・)の会員になっている。朝田寺花火大会では駐車場を提供したり、防災協定を締結し、地域の避難場所にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座などを開催し、地域の方に認知症の理解を深める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は小規模多機能センターと共同で年6回開催している。東部生活圏域6小学校区の代表の方から要望や提言を頂いている。出席者にはパワーポイントを作成し説明している。	2ヶ月に1回奇数月の月末(年6回)に開催している。報告だけではなく地域からの情報やアドバイスを多く出してもらえる様にパワーポイントなどで説明したり、工夫して意見交換を行い、そこでの意見や要望をサービス向上に活かしている(議事録も毎回きちんと作成されている。)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携を密にとり、第4地域包括支援センター、居宅介護支援事業者との情報交換を頻繁に行っている。松阪市担当者にあってはグループホームをはじめ認知症介護に深いご理解を頂き、支援していただいている。	松阪市介護保険課地域密着担当とは運営推進会議時や窓口に相談に行くなど常に連絡を密にとっている。市が事務局になっている松阪市の事業所連絡協議会のなかのグループホーム部会に参加し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として『身体拘束は行なわない』を旨としている。また、松阪市グループホーム部会において身体拘束をしないケアの研修を開催して職員を参加させたり、法人の全職員の必須研修になっている。現在、拘束の事例はありません。	管理者および全ての職員が身体拘束・言葉の拘束の内容とその弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関はいつもオープンにして、利用者・家族がいつでも自由に入出入り出来る様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	松阪市グループホーム部会において、三重県助成金を頂き、外部から講師を招き、学ぶ機会を設けている。施設での虐待防止の徹底をしている。ケア推進委員会を設置し、防止に対する対策を考えたり各職員に拘束の防止を啓発している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県補助金事業や法人全事業所と共に外部から講師を招き、制度の理解を学ぶ機会を設けている。法人の研修も毎年あり、職員は自発的に参加し、各個人の研鑽を高める努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点に懇切丁寧な説明を心掛けており、項目ごとに確認し理解を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口となる職員を明記し(玄関にも掲示)家族と利用者に文書と口頭で繰り返し伝えていきます。利用者からの意見がある場合、引継ぎ、会議で話し合い運営に反映している。また、第三者委員を置き、相談の窓口としている。意見ポストも設置している。	さくらテラスだよりを家族に送付し、ホームを理解してもらいながら、何時でも意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。そこから出た意見や要望はミーティングで話し合い運営やケアに活かしている。夏祭り時に開催している家族会で交流している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は会議や申し送り、引き継ぎシートへの記入で、自由に提案できる機会を設けています。新しい施設名も全員で考え、代表者が選ぶなどして反映しています。	管理者・職員とのコミュニケーションはとても良好で、日々のケアの現場などで出た意見や要望は運営に反映させている。(元管理者・管理者・職員の三者面談を年に2~3回実施している。)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H25年4月に新俸給表・人事考課制度を定め、勤務実績など考慮した人事制度をスタート。また、給与水準は従前を上回る様に改定。賞与は年5ヶ月(24、25年度実績)。職員間の食事会を開催したり、スポーツ大会で親睦を深めて働きやすい環境づくりにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTで職員一人ひとりが自己評価し、ケアに対して不安なことや、専門的知識の習得の為、その職員に適応する研修に参加を促したり、資格取得の為に先輩職員により、少人数でわかりやすい勉強会を開催してフォローアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松阪市福祉サービス連絡協議会グループホーム部会として会議を開催し、研修会・認知症病態生理の講演会を開催。同業者との意見交換をしている。今年度も『みえ福祉連携プロジェクト』と連動して職員研修も実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とその家族と密に話し合う機会を入所前に持ち、入所しても普通の生活と変わらない様な環境作りや職員のケアを心掛け、本人の意思を尊重した生活を送って頂ける様にしている。また、主治医によるケアカンファレンスで事前治療方針説明により身体の状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこの施設に決めた縁を大切に、その思いを感じとり、ご利用者に対しての気持ちを聴いて、不安の原因を解消できるよう、何でも言いやすい環境を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学を通じて、アセスメントや、習慣、好みをお聴きし、ケアに活かす様にしている。また、家族の要望を聴くことで、多様なサービスの提案をし選べるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、礼儀を重んじながらも、感情を表現できるアットホームな雰囲気があります。その人らしい生活、一日の流れを尊重し、介護の場ではなく生活の場となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訴えには真摯に耳を傾け、家族の苦労を我が身となって受容しあう。ご本人に起こったことは、家族と共有し、解決していくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から大切にしてこられた物や、子供や孫との思い出の写真を持ってきていただいたり、家族や友人、親戚の方等、いつでも来て頂ける環境にし、関係が途切れないよう努めている。	近隣の方や昔の勤務先の同僚の訪問が頻繁にある。また家族との墓参りや自宅へ帰省される方への支援など、家族との関係が途切れないように場面づくりに努めている。家族からは『家族関係が良くなった』『ホームへ何時でも訪問し易い』と感謝の言葉が多くある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数ケアのため、ご利用者それぞれの性格を把握でき居場所が確保されている。その場の空気を感じて、トラブルを未然に防ぐことができ、良い人間関係がつけれる環境にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人本部の行事に招待している。ボランティアを募ったりして、地域社会の繋がりをたもちながら、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を尊重し、希望に添えるよう努めている。本人の意思確認が困難な場合は、アセスメントやご本人の会話の中から思い・気持ちを把握するよう努めている。	センター方式のシート(C-1、2)も使用しているが、表情や雰囲気から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その都度日報や紐解きシートに利用者の状態を記入し、全職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「アセスメントシート」や、ご本人、ご家族の話を聴いて馴染の家具や写真を持ってきてもらったり、ベッドの位置を変えたりして、今までの住み慣れた部屋に再現しリロケーションダメージの軽減を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当の職員を定め、一日の過ごし方を「24時間シート」の作成で把握し、ご利用者一人ひとりの適切な生活リズムに合わせてケアをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の引き継ぎで、状況の変化や気づきを申し送り、担当職員が課題に掲げ、会議等で全職員が課題の解決のため、主治医やご家族に意見を求め介護計画を作成している。	日々のケアに基づいて計画作成担当者は、利用者の声を大切にし、課題の解決にむけて主治医・家族の意見を出してもらい、3ヶ月に1回計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々の介護記録に記入し、状態の変化等があれば、全職員に引き継ぎ、共有することで、対策やケアに良い意見が反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者から見ると職員は、お姉さん、お兄さんであったり、時には、お母さん、お父さんになったりするので、その時々に応じて、柔軟に対応し、安心を得ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の方々との交流や、商店での買物、名所を尋ねるなどを織り交ぜ協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医でなく他の医療機関での受診はご家族の協力を得て受診していただいているが、御家族の意向があれば添える様に、職員を配置して受診している。	グループホーム利用時に、利用前の受診経過と現在の受診希望を把握して受診支援をしている。また、協力医の月2回の往診や運営推進会議に学識経験者として出席してもらうなど、事業所と関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師、嘱託医に相談、助言を頂いています。協力医や専門医があるご利用者に関しては、その医師や看護職から情報を頂き、利用者に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時点で、MSWとの情報交換に努めている。必要に応じて連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所段階で『看取りの指針』を説明し、家族や本人の希望に添うように努めている。重度化やターミナルケアについて、本人や家族、主治医と連絡を密にとり、終末期ケアを行い職員、家族、主治医との方針の共有を行っている。	入所時に『看取りの指針』を説明し、利用者・家族の希望があれば終末期に向けて本人らしく過ごしていただく方針である。状況変化に応じて、現在の事業所で出来ること出来ないことを伝えて、段階的に合意をとりながら支援している。昨年2名・過去に10名の看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	松阪消防署を招いての救命救急の講習と、法人主催の講習をそれぞれ年1回以上開催して技術と知識の向上に努めている。緊急対応マニュアルを作成し対応している。緊急の連絡も落ち着いて出来る様にグループホーム緊急対応手順も用意し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	松阪消防署を招いての総合訓練を年2回と地域防災訓練開催して技術と知識の向上に努めている。また、近隣の住民の方へも運営推進会議などを通して依頼している。	松阪消防署との総合訓練を年2回と、自治会の地域防災訓練に参加している。地震・津波などの大規模災害想定訓練は朝見小学校ふれあい防災訓練で行っている。また近隣住民とは見守り協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレのお誘いはできるだけ小さい声でさせていただき、オムツ交換時は扉やカーテンで目隠しし、ご利用者の尊厳を保っている。入浴時も、脱衣場ではカーテンを引きプライバシーを確保している。	利用者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重することをケアの基本としている。名前の呼び方・排泄時・入浴時・居室に入る時など、利用者の気持ちに添うように優しく支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を第一を心掛け、利用者を選択しやすいような質問、選ぶのを待つ時間を設けている。はい、いいえの答えを求めめるのではなく、その人の言葉で答えて頂ける様な問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分によって、居室で過ごしていただいたり、気の合う人の傍でお話したり、テレビの鑑賞をしていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	45日ごとに訪問理容があり、理髪していただき、美容院希望の方は送迎している。洗顔・整髪・口腔ケアも毎朝の日課で朝は温かい顔拭きタオルを提供し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アンケートの実施をして、好みを重視し、栄養面や、季節感や行事食も取り入れ、咀嚼機能も考慮したメニューを考えています。	調理の音や匂いで五感を刺激し、食事が楽しみなものになるように工夫している。優しい選曲のBGMが流れる食事中は職員も同じテーブルと一緒に食事をしながら楽しい会話に花が咲き、和やかな食事風景である。利用者に嗜好調査を行い献立に活かしており、毎月の外食も楽しみごとになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一人一人の嗜好や摂取量を把握しており、それぞれに合った盛り付け、加工を施し供している。水分量を毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じてイソジン、お茶、口腔清拭、ブラッシングなどケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能を最大限に生かしたケアを心がけています。個々の排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導をしています。	日々の寄り添うケアから尿意のサインや一人ひとりの排泄パターンを把握して、自立排泄に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導を行っている。毎日、立位の工夫や色々なトレーニングを行い、なるべくおむつをしない工夫をしている。リハビリパンツから布パンツになられた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食、夕食にマクロビオティックの考え方を導入。玄米粥を召し上がって頂き、排便を促す薬を減らし、自然排便が出来るよう支援させて頂き、便秘の解消に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	洗身、洗髪、着替えは個々に応じて対応。拒否がある方は、無理強いはいしない。プライバシーには最大限配慮します。	入浴は順番をボードにかかけ、不公平感が無いように工夫して入浴が楽しめるように取り組んでいる。利用者のこだわりにもきちんとして対応し、週3回は入浴して頂くように利用者一人ひとりに添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの向き、布団を好まれる方(現在はおられない)、就寝時間も利用者それぞれです。消灯時間も特に定めていない。部屋の照明の調節や24時間室温調節をして安眠出来る環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者一人ひとりの薬の目的を周知しており、正しく服用できるように支援している。薬が変わった時は特に副作用等の把握を慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意とされることを分担して、洗濯たたみ、おしぼり巻き、テーブル拭き等をしていただいたり、毎日のレクリエーションでは、カラオケ、塗り絵、オセロ、パズル、懐かしい歌等で気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族による墓参り、外食に出掛けていただいたり、施設の車で、季節ごとの花や風景を感じて頂けるよう出掛けたり、食後にカフェでコーヒーを楽しんだりしている。暖かい日は庭に出て日光浴をしている。	利用者一人ひとりのその日の希望にそって、斎宮の季節の花見(桜・ひまわり・コスモス…)や外食・カフェにも出かけている。外出しにくい利用者にも、ペランダのベンチでの外気浴や花に水やりなどの楽しみ事もある。また、家族と毎週外出される方もいる。	日常的に外出支援は行われているが、利用者一人ひとりの希望を把握し、普段はいけない場所にも家族や地域の方々の協力も得て出かけられるように支援されることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	適切に有意義にお金を使えるよう支援している。自己管理が困難な方でも買い物時にお金を渡しご自身で買いたい物を選んでもらったり、支払ってもらって等して、安心・自信につなげている。お正月にはお年玉を渡したい方もみえるので、いつでも対応できるように準備している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を入居者が使用する時は、状況に応じて席を外すようにしている。基本的には自由。利用者用に専用回線を設置した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ティッシュの箱を手の届く場所に置く等、共用空間であっても入居者がその人なりに日用品が使えるようにしている。又、毎月季節感を味わって頂ける様、季節感を採り入れた壁紙を職員と一緒に考えながら制作している。食事の匂いが伝わる様にし、生活感を出している。	優しい光のさしこむ共用空間には、季節の花が活けられてゆったりとしたスペースになっている。季節感や生活感をとり入れて、お気に入りの場所一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で、会話を楽しんだり、居心地良く過ごせる居場所づくりの工夫が随所にみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの置き方を工夫して、誰とでもお話出来る様にし、気軽に座っていただけるよう配置している。その時々居場所をみつけて話をしたり、新聞を広げて読める環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切にしてみえた物や、馴染のものは居室へ持ちこんでいただき、家で暮らしていた雰囲気、居心地良く過ごされる工夫をしている。	洗面台とトイレがクローゼットの中に整備され、お洒落で清潔な居室になっている。家族の訪問時にもゆっくり過ごしてもらえる様に配慮し、本人の意向を確認しながら、居心地良く過ごせるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室をクラスター状に配置しているが混乱されるご利用者にはドアに目印となる物をかけている。安心して自立した生活をして頂けるため、過剰介護にならないよう援助している。		